

# 小牧市の分析まとめと対策について【小学校】

令和4年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

## 本年度の分析にあたって

4月19日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるよう、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

今回は平成30年度から4年ぶりに理科の調査が行われました。その結果と指導改善のポイントについてもお知らせします。

## 各教科の結果から

### 国語

平均正答数は、全国平均と比べてやや低く、県平均とはほぼ同等の結果でした。

「書くこと」「読むこと」の力をみる問題の正答率は、どちらも県平均とほぼ同等の結果でした。文章に対する感想や意見を伝え合い、よいところを見付ける問いでは、比較的に正答率が高い結果となりました。

「話すこと・聞くこと」の力をみる問題の正答率は県平均をやや下回る結果でした。互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力に課題があると言えます。

「言語文化」や「言葉の特徴や使い方」の力をみる問題は、漢字を文の中で正しく使う力に課題が見られました。

選択式や記述式などの問題形式に関係なく、無回答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に粘り強く取り組む姿勢に課題が残りました。

### 算数

平均正答数は、全国平均・県平均と比べてやや低い結果となりました。「数と計算」の問題の正答率が最も高く、次いで「データの活用」の問題、「図形」の問題と続き、「変化と関係」の問題が最も低い正答率となりました。

個々の問題について見てみると、被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題(1050×4)の正答率は約90%、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質の理解をみる問題の正答率は約80%と高い結果となりました。

百分率で表された割合を分数で表す、また、数量が変化したときの割合の変化について正しいものを選ぶ問題の正答率が低く、課題が見られました。

国語と同様に、選択式や記述式などの問題形式に関係なく、無回答率が全国平均より高くなる傾向が見られ、問題に粘り強く取り組む姿勢に課題が残りました。

### 理科

全体的に県の状況と同様の傾向が見られます。

「生命」の領域の問題は概ねよくできていました。

また、領域に関係なく、実験の結果から問題解決に必要な情報が整理された記録を選ぶ、観察の結果を分析し自分の考えをもつ問題は高い正答率でした。

光の性質(「エネルギー」の領域)や水溶液(「粒子」の領域)にかかわる問題は、正答率が低くなりました。事象や現象から得た情報について分析・解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することなどに課題があると考えられます。

## 今後取り組む指導改善のポイント

### 国語

- 「話すこと・聞くこと」の指導を充実させます。互いの立場や意図を明確にしながら話し合う中で、異なる意見を生かしながら、自分の考えをまとめる力を伸ばすことができるように指導を工夫します。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字の確実な定着を図るとともに、さまざまな場面で文章を書く際に、漢字を使うことが習慣化されるように指導を継続します。

### 理科

- 観察・実験を通して予想や仮説を立てたり、結果を整理して分析・考察したりする学習を積み重ねる中で、新たな問題を見いだすことができるように指導を工夫します。
- 観察や実験の結果から得た具体的な数値や分析を根拠として、自分の考えを表現したり、得た知識を日常生活と関連付けて捉え直したりすることで理解を深めるとともに、学びへの意欲を高められるように努めます。

### 算数

- 「変化と関係」の指導を充実させます。割合を用いて解決する問題について理解を深められるよう、日常場面に対応させて考えさせるなど、指導を工夫します。
- 問題の考え方・解き方について、仲間に説明したり仲間の説明を聞いたりする機会を多く設定し、よりわかりやすい説明の仕方や効率的な解き方について考え、表現する力を伸ばします。

### 全般

- 子ども同士の関わり合いを大切に「学び合う学び」の授業に継続して取り組み、安心して学びに向かうことができる人間関係を構築するとともに、学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善を図ります。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指すとともに、自ら学ぶ力を伸ばすため、子どもたちができていることできていないことをふり返り、自ら課題を見付ける力を育てます。

## 質問紙調査から

毎日同じくらいの時刻に寝ているか 肯定的 81.2%

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 91.3%

朝食を毎日食べているか 肯定的 92.3%

全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣は守られていることが分かります。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的 78.9%

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか

肯定的 87.9%

肯定的な回答が高い値を示す一方で、自己肯定感が低い児童がいることもうかがえます。子どもたち一人一人に寄り添い、よいところを積極的に評価していきます。

いじめはどんな理由があってもいけないと思うか

「当てはまる」と答えた児童が84.9%と全国平均・県平均を上回っており、小牧市の児童の規範意識の高さが表れています。

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか 肯定的 76.9%

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか 肯定的 60.4%

主体的に学ぶことについては肯定的な回答が高い値を示しています。調べたことなどを生かして効果的に伝える力を身に付けることを意識した学習活動を進めます。

国語・算数・理科の勉強が好きか

肯定的 61.8%・64.2%・79.2%

国語・算数・理科の授業の内容はよく分かるか

肯定的 82.7%・80.0%・87.4%

国語、算数と比較すると理科が好きという児童が多いことが分かります。「主体的・対話的で深い学び」を意識し、よりよい授業づくりに努めます。

5年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか

ほぼ毎日 53.4% 週3回以上 28.0%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて2倍以上高い値でした。デジタル教科書やタブレット端末などを日常的に授業で使用していることが分かります。ICT機器の効果的な活用方法の研究をさらに進めます。

平日1日あたり、どれくらいの時間テレビゲームをするか。また、携帯やスマホでSNSや動画視聴などを

するか

1時間以上 79.4%・54.2%

携帯やスマホなどの使い方について、家の人と約束したことを守っているか

肯定的 68.6%

今後も、携帯やスマホなどの機器の利用方法、ルールについて家庭で話し合う機会を大切にいただけるとよいと思います。

## 学習態度・生活態度の状況